Activity report

「府内☆学生ECOフェスタ」お礼のあいさつ 全員に拍手と感謝を

2010年3月下旬、大分県内の大学生が「地域を盛り上げたい」と立ちあがった。昨年夏の大分市主催のキャンドルナイトを大学生新聞「キャンパスカフェ」記者として取材し、イベントのあり方に疑問を呈したことがきっかけとなった。

市民参加をうたっていながらも、実際、準備に参加している市民はごくわずかだった。「地域と環境のために、私たちにできることはないか」。その気持ちから「府内☆学生ECOフェスタ」は始まったのだ。

大分市では初めてになる大規模な学生発イベントだ。実行委員長に任命された私の心は、不安一色だった。大分市や府内五番街商店街と共催となる。学園祭などとは全く違うのだ。何度も会議を重ね、互いにコミュニケーションを取り合った。

6月19日のイベント当日、雨が心配されたが何とか持ちこたえ、予定通りの開催となった。

本番では少なからぬ課題も見つかったが、「若者が地域を盛り上げるきっかけ」になったことは明らかだろう。この開催を機に、市民みんなが環境保護に対する意識を強めてほしい。若者が地域を盛り上げようと奮闘していることを知ってほしいと思う。

このイベントは、私たちひとりひとりの力では達成することはできなかった。たくさんの力が成功へと導いた。多くの学生ならびに関係者の皆様に、感謝の気持ちを述べたい。そして拍手を送りたい。ありがとうございました。

（実行委員長／２年・赤池すずか）

この記事から始まった

「キャンドルナイト」というイベント自体は、市民によく浸透している。府内五番街のキャンドルナイトにはには、家族連れからお年寄り、学生まで幅広い年代が参加した。しかし、課題も少なくない。一つ目は準備から片づけまで、すべて市役所やＮＰＯなどの運営側が行っていたことだ。二つ目は不参加の店舗もあったこと。三つ目は間違った理解をする人もいたことだ。（中略）

エコ活動は一朝一夕とはいかない。キャンドルナイト自体も、CO2排出量をその日のうちにどれだけ減らすかが問題ではない。どれだけの人にエコ活動を考えてもらうかという啓発イベントのひとつだ。市民が運営し参加するキャンドルナイトの実現に向け、私たちがすべきことは何なのだろうか。

（齋藤兼信、赤池すずか）＝毎日新聞大分版「キャンパスカフェ」09年7月号

「地域社会特講」から 五番街商店街の街づくり

6月15日の芸短大「地域社会特講」は、大分市環境対策課の三ノ宮耕介主事と、府内五番街商店街振興組合の林田文夫副理事長（写真）を講師に迎えた。19日の「府内☆学生ECOフェスタ」の強力な支援者。本番を4日後に控えて、講義にも熱がこもった。三ノ宮さんは「大分市の環境対策」、林田さんは「五番街商店街の街づくり」について話した。

「情報発信特講」から 大分合同新聞のハチミツ

「花が咲いている家にハチミツが入った小さなビンを持って話しかけるんです」。６月７日の「情報発信特講」。大分合同新聞社ストラテジックデザイン室の佐々木稔部長は優しい笑顔で、こう語った。

東京支社に勤務していた時、銀座の街路樹で一匹のミツバチを見つけた。大分に帰った後、大分市の緑化率が９％であることを知った。「緑と花プロジェクト」を立ち上げた。いま、会社ビルの屋上ではミツバチを飼っている。おいしいハチミツがとれる。ハチミツを使って、街の人と協力し商品を作る。ミツバチが人と街を変える「架け橋」になっているのだ。

（１年・天本聖菜）

「情報発信特講」から 府内フォーク村「十三夜」

初代「かぐや姫」のメンバーだった森進一郎さんは、メンバーから抜けても、音楽を愛する心は変わらなかった。「音楽に関係のある仕事をしたい」と銀行を早期退職して、「十三夜」を開店した。「生ライブが一番いい」と語る森さん。その魅力を伝えるため、すでに3000回は歌ってきているという。音楽を通じたお客さん同士のコミュニケーションがある。そこが「十三夜」の魅力だ。音楽を愛する気持ちに終点はない。

（１年・櫻井奈菜子）

あしなが学生募金に参加しました

土曜日はあしなが育英会職員の松井佳さんが先頭に立った。「私が大学進学できたのはあしながの奨学金と母の支えがあったからです。中学２年で父を亡くし、女一つで自分を育てくれた母に感謝しています」と涙ぐみながら、呼びかけを続けた。その姿は松井さんの活動に対する熱意の表れであり、居合わせた人々の心に届いたと思う。

日曜日はあしなが育英会代表の石橋弘基さんが先頭に立った。「自分のために一日中懸命に働く母を見て進学を諦めていたが、母の言葉だった。今まで不自由なく大学進学できたことが当たり前のように感じていたが、それは違うのだと思い知ることができた。夢を持つ遺児が将来への道をどのように切り開いていくのがよいか、一緒に考えてみたいという気持ちが生まれた。

（1年・太田有里紗）

日本赤十字社、学生ボランティア体験会に参加

4月25日に、日本赤十字社大分県支部で行われた学生ボランティア体験会に参加しました。グループごとに分かれ自己紹介をし、非常炊き出し体験をしました。

まず専用の袋に米を量って水と一緒に入れ、口を輪ゴムでしっかり閉じて鍋に入れます。災害時に水がない場合は、お茶やジュースなどで代用し、米の袋を入れる鍋の水も泥水を利用したりするそうです。私は水の代わりにお茶を試してみましたが、炊きあがりはご飯に少し色がつく程度で、味はあまり変わりませんでした。

講師の井上さんからは、赤十字の歴史やボランティア活動の意義・心構えについてのお話を聞きました。「ボランティアは相手のことを思わなければ意味がない」「ボランティア家になってはダメ」という言葉が印象的でした。

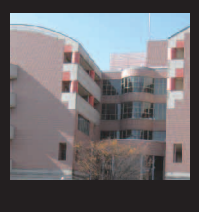
（１年・三浦晃子）

大分県立芸術文化短期大学　サービスラーニング公式新聞
〒870-0833　大分市上野丘東1番11号　大分県立芸術文化短期大学
tel.097-545-0542（代表）／fax.097-545-0543

平成22年度　サービスラーニング活動内容

〈前期〉
- ■あしなが学生募金
- ■アースデイ
- ■上野の森の会
- ■園芸サークル
- ■おおいた親子劇場
- ■大分たなばた祭り
- ■キャンドルナイト
- ■キャンパスカフェ
- ■竹田食育ネット
- ■鶴崎サエモン２３
- ■福祉施設ボランティア
- ■湯布院映画祭
- ■府内学生ecoフェスタ＊

＊この他にも新規プログラムがあります。



〈後期〉
- ■あしなが学生募金
- ■あしながＰウォーク１０
- ■上野の森アートフェスティバル
- ■上野の森の会
- ■園芸サークル
- ■キャンドルナイト
- ■キャンパスカフェ
- ■日韓次世代交流映画祭
- ■天瀬グリーンツーリズム研究会
- ■スタジアムクリーン大作戦
- ■クリスマス献血キャンペーン
- ■国際車イスマラソン